

ならぬ。其理論を具體化したものは日本の現在にあつては、労働者の「長」階級の選舉制度要求である。

而して労働者が其生存権を確立し其人格の獨立を圖らんが爲めにはあらゆる組織の中に此精神を具現して行かなければならぬ。此意味に於て労働運動は僅に労働者の生活に對する部分的改善に終始するものに非ずして其根柢に注流するものは實に文化的精神其者である。更に之を換言すれば労働運動は單なる労働者運動には非ずして全人類の生活権の要求である。而して園池製作所に於ける労働争議は此理法の第一に具體化されたるものでなければならぬ。

結 論

園池製作所の労働争議は大體以上の如き經過を以て其終を告げた。其争議のあらゆる部分に於て

如何に産業民主の精神が動きつゝあつた乎。見よ、此精神を基調としたる労働戦は以上の如くにして美事職工の勝利に歸し、是れ迄資本家が其最大の武器とした工場閉鎖が實質に於て悉く労働者を威嚇するに足らざる事を明瞭に曝露した。而して彼等の秩序整然たる行動は終始一貫して何等の遲滞を見る事無く其目的を遂行した。彼等は實行を以て日本の労働運動の新様式を啓示したと言ふ可きである。吾人は之を起點として日本の労働運動が新らしき光と生命とを與へらるべき事を信じて疑は無い、最後に本社は本社員平澤計七、加藤勘十の兩君が此労働争議に關係して幾分にも其目的の完成に助力した事を無上の喜びとするものである。何れにせよ、日本の労働運動は今や大きく廻轉を極めて進展しつゝある。而て此廻轉、園池製作所の争議が一つの美はしき模型として顯はれた事を無上の欣懐とする。本社が進んで此小冊子を頒布する趣旨は以上の如く明かである。(完)

嚴正非中立の宣言

東京毎日新聞社同人

弱者の親友を標榜して、實は強者の番犬たる新聞あり。中正穩健を標榜して、實は政黨者流又は資本家の御用新聞あり。而して謂ふ。新聞は中正穩健の立場より、社會の事物を批判せざるべからずと。眞に笑ふべき哉、我が東京毎日新聞は、正義人道の名に於て斯る不徹底にして、不都合なる新聞を彈劾す。彼等の中正穩健とは、資本家と労働者の中間、官僚と民衆の中間に介在して、糊塗百出知らず其の暴を助け、其の奸を進めたるものに非らずや。彼等が世界改造の日に於て、資本家と労働者、官僚と民衆の妥協點を求めんと焦慮するは稍々同情に値するも、遂に之れ無用の事也。改造は改造也。修繕に非らざる也、糊塗に依りて爲すべきに非らざる也。若し姑息之れ事とせんか、我國を擧げて世界に落伍せしむるもの也。

我が東京毎日新聞は、労働を基礎とし民衆を土臺とし、之れに依つて世界改造の業に參せしめんとするもの也、見よ、今日門地と財富に依る特權階級幾人かある、僅々五十萬人に足らざるに非らずや。而して殘餘の六千五百五十萬人は生活の鐵鎖に泣き、勞役の荆鞭に鞭たれつゝあるに非らずや。咄々、何者ぞ此の多數の労働者を衆愚となし、多數の無産者を暴民となすものぞ。

我が東京毎日新聞は、一國の元氣なり、一國の血肉たる多數の労働者に與し、多數の無産者に味方し、